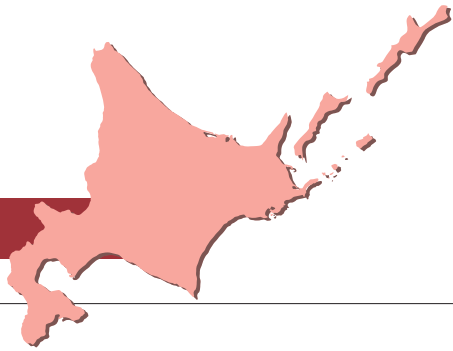
7月の道内景況　情報連絡員レポート

全体で大幅な改善がみられるも　前年同期を下回る

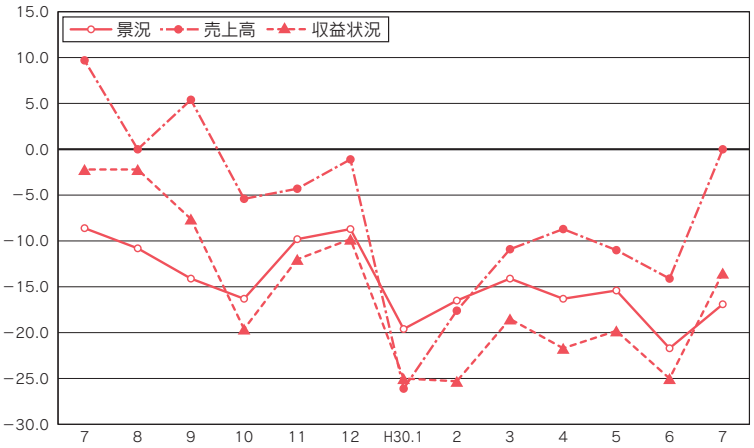


概　況

主要DI値は、全項目大幅に改善したが、「景況」「収益状況」は依然マイナス域にある。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「売上高」「販売価格」以外の項目で若干改善したが、数値はほぼ横ばいで推移した。非製造業では「売上高」「収益状況」で大幅に改善したが、「雇用人員」が悪化し、人手不足感が強まっている。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の景況	△21.7	△16.9	4.9 ↗	△21.2	△15.2	6.1 ↗	△22.0	△17.9	4.2 ↗
売上高	△14.1	0.0	14.1 ↗	3.0	0.0	△3.0 ↘	△23.7	0.0	23.7 ↗
収益状況	△25.0	△13.5	11.5 ↗	△18.2	△12.1	6.1 ↗	△28.8	△14.3	14.5 ↗
販売価格	3.3	7.9	4.6 ↗	6.1	6.1	0.0 →	1.7	8.9	7.2 ↗
取引条件	△5.4	0.0	5.4 ↗	△3.0	0.0	3.0 ↗	△6.8	0.0	6.8 ↗
資金繰り	△5.4	1.1	6.6 ↗	△6.1	3.0	9.1 ↗	△5.1	0.0	5.1 ↗
雇用人員	△13.0	△13.5	△0.4 ↘	△12.1	△9.1	3.0 ↗	△13.6	△16.1	△2.5 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・原材料費の高止まりが続いているが、小売価格に転嫁できず、取引条件、収益状況、業界の景況は悪化が続いている。（水産食料品／全道）
・6月からの天候によりソバや麦の生育状態が悪く、道内産は品質が悪い状態での収穫となる予想。また小麦やソバの値が上がってくる。値上げができないなか原材料が上がると利益が減少する。（めん類／全道）
・6月の単月では味噌・醤油とも前年より良かった。1月～5月の累計出荷量で、全国と比較すると道内の動きが悪い。原材料の価格が上昇しているが、販売価格は逆に下がっている傾向が見られ、経営環境は相変わらず厳しい。（味噌・醤油／全道）
・新昆布の仕入が始まり今年も高値。値上げがスムーズにいっていないため収益は低下している。（水産食料品／函館）
・7月の天候は上旬ではやや肌寒い日々が続いたが、下旬から全道的に猛暑となり、飲料水の売れ行きが好調となり、売上の増加につながった。（飲料／全道）
・原木入荷の滞りが、工場の生産性に影響を及ぼしており売り上げが落ちている。しかしながら、春先の価格見直しのおかげで収益状況は維持できている。（一般製材／幕別）
・函館地域では、新幹線トンネル用の砂の需要により若干ではあるが好転。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・7月度の出荷数量、売上高については、特需を含めた路盤用、上下水道工事などで前年対比増加した。（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・自動車は普通。鋳鋼品は普通。水道資材はやや悪い。建設機械はやや良い。農業機械・一般鋳物は良い。マンホール、上下水道管はやや悪いが、工作機械、建設系は引き続き好調である。副資材は中国の輸出規制を背景に高値で停滞している。
地方では人員不足が顕著で、外国人の雇用要望が出ている。（銑鉄鋳物／全道）
・会員事業所の業況
修繕船の受注が好調で、お盆休み返上での作業が続いている。9月以降は、修繕船の受注量は低迷、陸上工事（橋梁、クレーン等）は順調でこれからの修繕船の受注に期待する。（金属製品／室蘭）
・昨年度と比較すると、すべてにおいてほぼ横ばいだったが、公共事業に携わる製品づくりをしている企業では、公共事業の工事終了も近づき、操業度が落ちてきているとのことだった。一方では、久しぶりに設備投資を行い、最新技術により精度をあげた製品づくりが始まった企業もあった。（金属機械工作／江別）
・本州方面の大手どころの受注が引き続き順調で価格の転嫁もスムーズ。（金属機械工作／旭川）
・大手家具企業の身売りの話もあり、我が業界の現状および今年の傾向は、横ばいもしくは減少傾向にあると思われ、いかに消費者に対するニーズを捉え購買に繋げていけるかが課題であり、個人消費増のための景気対策も希望する。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・事務機器、電子機器類は売上増加との回答が多いが、全国的な豪雨被害等の影響で履物や雑貨類は通常の季節商品が不振。（各種商品／札幌）
・十勝の主要産業である農業については、天候不順が7月から8月も続いており、野菜関係を中心に生育の遅れが懸念されている。（各種商品／帯広）
・当月は例年よりも気温が低かったところもあり、流通菓子の売れ行きは比較的良かった。ただ、物流コストなどの高騰が続いており収益面で厳しい状況になっている。（菓子／全道）
・呉服、高級アクセサリー、スポーツ・趣味関連、医療関連、交通・旅行が売上を伸ばした。ガソリン価格の高止まりもあり生活関連（燃料費項目）の上昇が継続。1件あたりの単価が上昇した業種が増えているが売上はパッとしない。（各種商品／札幌）
・7月前半の天候不順により、衣料品を中心に全般的に売上が伸び悩んだ。家電系の売上は量販店の店舗によりバラツキはあるが、総体ではほぼ昨年並みとなった。ドラッグストアは好調であった。
収益においては、セキュリティ強化で設備投資した減価償却費の増加と融資落込みよる収入の減少で昨年より悪化した。（各種商品／旭川）
・7月取扱高は、前年比100％の状況。今月も苫小牧地区は天候が悪いほか、売上が良くない状況となった室蘭市の卸売市場移転に伴い、その跡地75,000m^{2}に大型商業施設が建設予定で、2020年白老町にオープン予定の「民族共生象徴空間」と併せてインバウンドを意識した店舗建設となるとのことから、商業環境がどのように変わるかの期待感があるものの、中心商店街の厳しさが増すと思われる。（各種商品／苫小牧）
・函館朝市では、夏休みに入り、当初から予定していた地元の遺愛高校とタイアップして「通訳OJT学生ボランティア体験会」を実施した。この取り組みは「朝市での業務」を通じて“通訳のお仕事”の楽しさや大変さ“外国人とのコミュニケーション”などを学んでほしいと思い、また、それによって、お店の売り上げにも繋げればと思い、今回はじめて企画した。若干課題も出たが、まずは生徒皆さんが一様に楽しく積極的に取り組んでいたことに安堵した。今後は今回の実施を受け、様々な観点から検証し、改めて何度かテスト実施を行い、将来的には事業化に向けて継続していきたい。（各種商品／函館）
・市場価格は、前年同期に比べ1ℓ当り20円程高くなっているが、価格は6月以降安定しており、販売数量も7月に入り前年並みに持ち直している。しかし、慢性的な人手不足は益々深刻な状況となっており、経営環境は依然厳しい状況が続いている。（燃料小売業／稚内）
・売上高対前年同月比3％の増加。嗜好品の売れ行きが前月に続き好調で客単価も上がった。（野菜・果実／札幌）
・夏休み、観光シーズンを迎え入店客数も増加に転じ、特にピーチの関西線定期就航便により、道東圏への観光客の増加が感じられる。夏に合わせた子供向けのイベントで集客にもつながり、臨時アルバイトを採用した点では、雇用人員の増加となっている。（鮮魚／釧路）
・7月の販売数量は、夏日などが多かったこともあり、エアコン利用等によりガソリンの販売量は大幅に増えたが、石油製品全体では、消費者の節約基調が変わっていないこともあって、前年同月比減となっている。また、節電PR等が拍車をかけていることもあり、消費者の節約意識は一層活発となっており、経営環境は依然厳しい状況が続いている。（燃料／全道）
・7月の道内家電販売はAV、エアコンなどが天候不順により前年以下に終わった。本州、特に西日本は猛暑と豪雨によりエアコンは品薄状態、道内はその余波で品薄傾向、単価は暖房エアコンなどの普及で上昇傾向にあるが台数が伸びず、昨年の猛暑に比べ夏物の立ち上がりが悪く冷蔵庫なども含め売り上げは減少。（電気機械器具／全道）
・売れている店と売れていない店と対極の様子。新車も販売が厳しいようなので秋商戦に期待するところ。（中古自動車／札幌）
・現状維持。可もなく不可もない状況。廃業のお知らせばかりの中で、8月1日付で1施設加入。（公衆浴場／全道）
・大手企業のAIやIoT分野へのシステム開発投資が相変わらず拡大している。また、業務の効率化とシステム運用コストの削減にクラウドサービスを利用する中堅中小企業が増加して、そのシステム開発投資も伸長している。しかし、慢性的なIT技術者の人手不足が続いている道内のシステム受託開発会社は思うような開発ビジネスが受託できていない。開発単金の上昇によって業績は向上しているが人件費の上昇や働き方改革に伴う職場環境改善への投資も膨らんで、思惑通りの利益確保には至らないとの経営者の声が多い。（ソフトウェア／全道）
・7月の十勝川温泉宿泊入込数は33,669人　前年度比－2,955人、92％でした。道内客は昨年比375人減、97％、道外客は1,262人減、92％増加、インバウンドは、1,318人減、87％でした。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・材料（溶剤）が価格上昇（石油高の関係）。（塗装工事／札幌）
・7月の業況も、横ばい傾向。新幹線延伸また観光客増加に伴いホテル建設や再開発による建築建物等の増加に伴う電気工事の需要があり好景気のようだが、地域と特定業者に限定され格差があるように感じられる。今後は、土木工事・建築改修工事等々に伴う電気設備工事発注に期待したい。（電気工事／全道）
・組合員の業況
公共事業及び民間工事も異常気象の影響も受けず順調な進捗にあることから、上半期の収益状況は前年並みと見込んでいる。
問題点
市の補正予算による当組合関連工事が見込まれる。特に土木事業の発注が目玉となっているが、単独での対応となることから継続性が期待出来ないことが予想される。
地域の実情
日照不足による農作物の生育が芳しくない状況では、地域経済に少なからず影響を及ぼすことから、今後の気象状況を注意深く観ていきたい。特に台風の時期には被害を最小限に抑える準備が必要なことから、防災を意識した訓練等が行われている。（管工事／名寄）
・野菜の一部で雨不足から作況が悪く、出荷を遅くしているようで例年より動きが鈍くなっている。運賃は少しあがっている。ただ、燃料単価が上昇しているため、さらに値上げできるか悩ましいところ。（一般貨物自動車運送／小樽）
・軟弱野菜の出荷量は長雨の影響から悪化している。特に大根・人参に影響が出ている。また、小麦も同様。馬鈴薯・玉ねぎは平年通りが見込まれる。
一般カーゴについては、7月後半より急激に良化している。前半は北海道発が低迷したものの、本州発が例年並みの動きとなり車両不足となった。域内輸送も同様の状況。気温の上昇に伴い、飲料等の輸送が激増している。その他の貨物も増加傾向にある。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比　5.3％減少
乗務員数は前年同月比　6.0％減少
6月分チケット取扱高は前年同月比　9.1％減少（一般乗用旅客／旭川）